

- 事務研究大会報告
 - ・ 会長挨拶より・・・1
 - ・ 研究報告の様子・・・2
 - ・ 研究会の様子・・・3
 - ・ 全事研より・・・4
 - ・ 全事研HP・・・5

山事研會報

第27号

山梨県公立小中学校事務職員研究会
編集発行人 調査広報部

平成23年1月27日発行

第12回山梨県公立小中学校事務研究大会

10月28日午後1時から、いちのみや桃の里ふれあい文化館にて開催されました。77名の会員の参加があり、有意義な大会となりました。

会長挨拶より

はじめに、望月会長から予算要求時期における今大会並びに8月の第2回研修会への参加のお礼がありました。つぎに、今年度の全事研全国大会（徳島大会）の様子について触れ、「関東、全国に学習の場を拓げましょう！」と会員に参加を呼びかけました。この大会では、毎回多彩な方々の記念講演も魅力のひとつで、来年度は鳥取県で開催されるので是非積極的な参加を、との話でした。



また、少人数学級などによる30年ぶりの定数改善に関わって、オンラインでのパブリックコメントへの協力依頼についての話もありました。

最後に、「若い人たちが安心して仕事を続けられるよう頑張りましょう」「組織的にすることで山梨の学校事務を守りましょう」と、熱い気持ちの込められた挨拶がありました。

会長もオススメ！

全国大会へ行ってみよう！

全国公立小中学校事務職員研究会（全事研）では、毎年夏に、全国大会を開催しています。山事研は全事研を構成しているひとつの支部なので、会員は胸を張って参加することができます。例年・・・開催時期は7月下旬か8月初旬の3日間で、参加費は5,000円です。今年度は四国地区の徳島県で開催されました。来年度は中国地区の鳥取県で（7月27日～29日）開催されます。

来年度の鳥取大会のテーマは『子どもの豊かな育ちを支援する学校事務』とされ、サブテーマは「動きだそう！今、ここから～チェンジ・デザイン・ジム&カリキュラム～」となっています。研究課題を「教育課程の実施と学校事務」とされ、近頃盛んに取り組まれている「カリキュラムマネジメント」について、また事務職員がカリキュラムマネジメントと一体となった教育条件整備を行う中で、教職員の協働や教育課程の実施にどのように関わっていくのか、などについて研究発表がされるのでは、と期待されます。

全国大会は、全国各地から学校事務職員が集まり、楽しく学べる研究の機会です。自分の県だけでなく、他県の学校事務職員の実態・実践を知るとは、とても刺激になり視野が広がります。また、山梨県の良さをあらためて知ることにも出来ます。自己研鑽の場としてはもちろん、全国各地に足を運べる楽しみもあり、一度参加すると、また行ってみたいくなります！3名という制限がありますが、山梨県教育委員会からの指名を受けて旅行命令で参加することも可能です。ぜひ、参加してみてください！

研究報告「魅力ある研究組織をめざして」—会員のアンケートを通して—



山事研は、平成23年1月27・28日に開催される第42回関東地区学校事務研究大会（埼玉大会）で、第3分科会を担当します。これまで研究委員会が中心となり、発表に向けて研究を進めてきましたが、今研究大会において、分科会のプレ発表として研究報告を行いました。

会員にアンケートを実施した結果を活かした内容であり、第40回関東地区学校事務研究大会（山梨大会）を終えて直ぐの分科会担当であったため、研究する期間が非常に短く、苦労も多かったようです。

始めに、研究委員長である松山寿子さんから挨拶があり、分科会のプレ発表に移りました。分科会の導入部分では、場を和ませるために工夫された、山梨県に関わるクイズを行ってからレポートの内容に入りました。



研究委員長：松山寿子さん

参加者のアンケートから

★クイズを取り入れるのは良いと思います。リフレッシュできました。

★分析について、大変だったと思います。考察に納得です。アンケートの結果を初めてみて、もっと会員数を増やして県教委へ認めてもらう組織になっていくことが大切だと感じました。P17の3) あなたの考えるこれからの学校事務②主たる業務でないと思われるものについて、自分の考えと随分違うことに驚きました。他県のこと（職務内容や事務職員の感じ方等）も気になるところです。

★山梨県・山事研の現状がよくわかる発表でよかったです。私自身まだよく分かっていないので、今日の発表は勉強になりました。他県の先生方にも分かってもらえたいと思います。レポートお疲れ様です。ありがとうございました。



発表者：小笠原博美さん、遠藤尚美さん、野田忠司さん、志村秀樹さん

研究会「会員の考える学校事務職員のあり方」—今後の学校事務に関する相互の意見交換—



プレ発表後、山梨における学校事務職員のこれからのあり方について、会員数を増やしていくにはどうして行けば良いか？などについて会員同士の意見交換が行われました。全てではありませんが、項目ごとに意見を紹介します。

県との交流について

様々な職種を経験することで事務職員の幅が広がる。交流がある県では、「外から見ることですばらしい仕事をしていることに気付けた」という感想を持っている人もあり、交流することで学校事務を知ってもらえる良い機会となる。外から交流してもらおうのも手ではないか。

研修について

- ・新採研修以降、研修がないので専門性を高めるために今後も研修機会がほしい。
 - ・財務研修を行ってほしい。財務に携わっているのにこれまで研修が行われてこなかった。専門家の話を聞き、知識を得ることで学年会計等担当職員にアドバイスできるのではないか。
- 事務職員が研修に飢えていることが伝わってきた。会員を増やし県の研修を行えるようにしたい。

参加者のアンケートから

★山事研に加入していない事務職員を対象としたアンケートを行って欲しい。会員と非会員をくらべて分析するとよりはっきりすると思う。共同実施と標準的事務分掌は表裏一体のものなので、二つの事柄を同時に考えることが大事だと思う。加入率を上げるにはなんらかのアクションを起こさなければダメだと思う。たとえば「教協の事務研究会を取り込む」とか「地区ごとにテーマを決めて研究を行う」など考えて欲しい。研修については、経験者（初任研の講師）の実務研修を考えても良いのではないのでしょうか？（50代）

★手を挙げて発言することは出来ませんでした。皆さんのお話を聞いたことで自分の抱えていた気持ちとか、悩みとか、モヤモヤしたものから少し形を作って自分自身の中に出来てきたように思います。アンケートの結果にもたくさんのヒントがありました。やっぱり山事研はもっともっと会員を増やして、任意団体からの脱却を目指していきたいです。役員さんだけでなく会員一人一人が（私も）意識をして参加して。非加入のかたがたに声をかけようと思います。まずは自分の地区の加入率UPを目指します！（30代）

★今年度より加入しました。山事研の実態（会員数の件等）を今回の研究会で始めて知りました。なので、もっと前から加入をして協力できていればな・・・と後悔しました。今後の活動や研究の発展のためにも会員加入を呼びかけていきたいと思います。（20代）

会員数の拡大と組織について

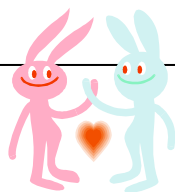
- ・各支部の研究会とつながれば全県で情報交換ができるのでは？
- ・役員之苦勞が会員に伝わってこない。情報発信するだけではなく、何か取り組めると良い。会員数確保のためには研修充実が必要。
- ・北都留の研究会では組織加入するという話が何度か出ている。研修には年休・職免で参加しているが、会員数が増えれば解消できる。
- ・加入しない人へのアンケートを実施し、課題を一つ一つ解決して行くのはどうか？「今の状態だと加入する気がしない」という人もいるので、それらを具体的に把握することが必要。

今年加入された方から

インターネットで情報収集していたら、全事研がすごい組織であることが分かった。外からではなく中に入って何かを得、勉強したいと思い加入した。加入する前は加入率の低さや、加入率が80%ないと県の研修として認められないなど知らなかった。

最後に望月会長より、加入していない人に話を聞いたら、誘われていない・組織がよく分からない・大変そうという理由で加入しない人がいた。私たちが思っているほど山事研が広く伝わっていないことを感じた。山事研を晒すようなレポートだが、前に進むために10、20年先を見据えて取り組みたい。将来的に校長会、教頭会に続く山事研になって行きたい、というお話がありました。

会員の皆さんの率直な意見を聞く、良い機会となりました。



全事研より

研究大会当日は、全事研より副会長の田辺徹馬さんがお見えになり、会に参加していただきました。田辺さんには、第42回関東地区学校事務研究大会（埼玉大会）で山梨支部が担当する第3分会の助言者をしていただきます。また、全事研の会長より第12回山梨県公立小中学校学校事務研究大会開催に際して、挨拶を預かっていただきました。当日は、時間の都合により紹介が出来ませんでしたので、会報紙面上にてご紹介します。

まず、はじめに全国公立小中学校学校事務職員研究会の活動に対しまして、深い御理解と、多大なる御協力をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

さて、社会の要求が多様化・複雑化する中、子どもの「生きる力」をはぐくむため、新学習指導要領は来年度から小学校が、再来年度から中学校がいよいよ完全実施となります。質・量両面での充実が図られたこの新学習指導要領を円滑に実施するためには、個々の児童生徒に応じた細かな指導が不可欠であり、より一層学校の教育力向上が求められています。また、中央教育審議会から、学級編成の標準の引き下げ、教職員定数の改善、その他権限移譲等の制度的改善などの提言がされました。その中の重要課題としてあげられた、「学校マネジメントの改善と教員の事務負担軽減」には、『例えば、子どもの指導に関する業務はすべて教員が担わなければならないと固定的に考えるのではなく、教務などの子どもへの指導に関する業務であっても、事務職員の方が効果的・効率的に対応できるものについては、事務職員がその専門性を活かして積極的に担うこととし、教員との適切な役割分担を行っていくことが必要である。』と記載されています。

学校に勤務する私たちは、常に教育行政の在り方を注視し、学校の総合力の向上に努めなければなりません。本会は、「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」をテーマに研究活動をおこなっております。「事務職員は、子どもたちを支援する職である。」という理念をしっかりと確認しながら、子どもたちや保護者・地域のみなさんとともに魅力ある学校づくりをおこない、事務職員として教育活動に対する研鑽を積み、学校事務業務のさらなる深化・拡充をすすめていきたいと考えています。

7月28日～30日まで、全国から1,800人を超える参加者を得て徳島大会を開催いたしました。「地域連携の在り方と学校事務組織」を特集テーマとして、今までの学校と地域の関わりについて問い直し、学校力を高め、子どもにとって意味のある地域連携の在り方とはどのようなものなのか、地域という範囲を含め、その役割や機能、組織について考えました。また、そこに関わる学校事務組織はどのような機能を持ち、役割を担っていくことがふさわしいのか考える機会となりました。「ひろがれ！つながれ！阿波ネットワーク」が全国各地のネットワークとなることを期待しています。

最後に、第12回山梨県小中学校学校事務研究大会の活動がよりよい教育活動を支援する学校事務や教育行政事務を推進できる活動であることを祈念するとともに、本日の大会テーマ『子どもの豊かな育ちを支援する学校事務』のもと、今回研究報告を行う「魅力ある研究組織を目指して、会員の考える学校事務職員のあり方」を通して、山梨県の学校事務研究会が組織を強固にされ、確実な実践や目的の共有ができることを確信し、お祝いの挨拶といたします。

全国公立小中学校学校事務職員研究会会長 檜山幸子

全事研のHPを活用しよう！

全事研では、HP(ホームページ)を作っています。このHP、よく見てみると「会員専用ページ」があります。こちらを開くと、全事研で行っている調査の結果や全事研データベースを閲覧することができます。「全事研データベース」では、各県の職務標準や管理規則、全事研のグランドデザインを閲覧できます。



①アドレスバーに、
<http://www.zenjiken.jp/> と入力します。



- メニュー
- トップ
 - 会長あいさつ
 - パブリシティ
 - 事務研トピックス
 - 全事研会報
 - 全国大会
 - 地区・県大会
 - 研究会組織・組織図
 - ・全事研要覧
 - ・あゆみ
 - ・活動方針
 - ・各部の取り組み
 - 研究内容
 - ガイドライン
 - リンク
 - お知らせ
 - お問い合わせ
 - 保護者負担経費・学校物品有効活用システム
 - **会員専用ページ**
 - 支部長専用ページ

②会員専用ページをクリックします。
③パスワードを入れるボックスが開くので、
ユーザー名とパスワードを入力します。

ユーザー名：member
パスワード：

パソコンから、他県の様子を知るいい機会です。
使ってみましょう！

※パスワードがわからない場合は、
地区委員さんへお訪ねください。



質問に答えて！？

会員さんへ33つの質問。

- ① 学校事務職員になってうれしかったことは何ですか？
- ② 学校事務の中で好きな分野は何ですか？(理由は)
- ③ 学校事務の中で苦手な分野は何ですか？(理由は)

- ① これといって思い浮かばないのですが、毎日楽しく過ごせています
- ② 備品整理や倉庫の片付け
(いらないものを捨てたり棚にきれいに並べられるとちょっとうれしい)
- ③ 認定事務
(本当にこれで大丈夫なの？と不安に思ってしまう)

(経験年数19年・40代)

- ① 『(鳥の) エサを買ってくれてありがとう』子どもたちからの手紙や卒業生に貰ったコーヒーカップ・・・子どもとの交流は私の宝物です。
- ② 会長の回答と同じです♪(第25号)
- ③ たくさんありますが・・・一番苦手な分野は、職員会議や朝礼・終礼での提案。プレゼン能力が皆無なので・・・。

(経験年数十数年・30代)

今後の活動への参加、ご協力をお願いします。

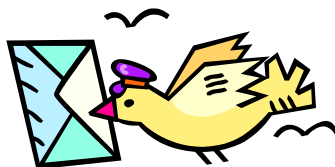
H23/1/27～28 第42回関東地区学校事務研究大会埼玉大会 埼玉会館、他
※山梨が分科会発表をします！！
第3分科会「魅力ある研究組織をめざして」

H23/2/25 全事研セミナー

H23/3/3 第4回代表者会

H23/7/27～29 第43回全国公立小中学校学校事務研究大会 鳥取大会

編集後記



平成22年度の会報は今回が最終号となります。いかがでしたでしょうか。12月始めに配布予定でしたが、のびのびになってしまいました。申し訳ありません。

時節柄、皆様ご自愛ください。

来年度もよろしく願い申し上げます。

■会報についての連絡先■

〒406-0851

笛吹市境川町小黒坂1941

笛吹市立境川小学校

堀内 光

TEL 055(266)2006

FAX 055(266)2021